

I. S. 英語英文学科・3 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

高校生の時に親に留学を反対され、大学生になったらいいよと言われたのが一番はじめのきっかけだったと思います。洋楽や英語が好きだった私はどうしても海外に行きたくて、大学生になったら絶対に留学しようと決めていました。同女の英文科に入って英語を勉強しながら、バイトをし、退屈な生活を送っているうちに、私は自分の生活をどうにかして変えたいと感じ始めていました。大学に通いながら、私の中で、英語自体を勉強するのではなくて「何かを英語で勉強したい」という気持ちがとても強くなっていき、それを実現するのに一番簡単な方法は留学することだと思い、気持ちを新たに、授業料を大学が負担してくれる協定留学を目指すことにしました。それは確か 2 回生になる前の春休みだったと思います。きっかけは些細なことでしたが、2 回生になる頃には、それが私の一番の目標になっていました。国際課に足を運んで気持ちを高めていました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

私にとって、協定留学の基準はとても高いものでした。一度受けてみては、と国際課の方に提案され、受けてみた IELTS はひどいものでした。Writing は得意なのですが、speaking が本当にひどかったです。そこから自分に火がついて、夏の TOEFL キャンプに参加して、そこでもらった参考書を夏休みの間解き続けて、朝から勉強していました。大学の speaking の授業に特に力を入れて取り組みました。家ではどんな質問されてもすぐに返せるように何度も何度も声を出したり、自分の声を録音して聞いて直したりしていました。入っていたサークル活動を休んでそれを毎日続けました。夏が明け、秋ごろには IELTS の結果が出ていました。大学のネイティブの先生に添削を頼んで、見てもらったりもしました。IELTS も TOEFL も、最初の自分からは考えられないほど点数が伸びました。これといった教材は分かりませんが、決めた教材を何度もやりこむこと、諦めないで取り組むことが大事だと思います。

③ 留学決定から出発までの準備期間

留学が決まってからは、好きな洋画をもっと観るようにしたり、単語勉強をよくしていました。ビザ申請や、ワクチンの注射は間に合うように早めに準備すべきだと思います。

④ 現地到着後

ホームステイだったので、空港までファザーが迎えに来てくれました。空港から大体 1 時間 30 分ほどかかりました。次の日からオリエンテーションが始まったのでジェットラグが

本当にしんどかったです。次の日にプレイスメントテストがありましたがあまり覚えていません。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

カフェの横の建物で、地下で授業が行われました。日本人が多かったです。授業はもちろん英語で行われました。分からないことはなんでも聞くようにと言われていたので大丈夫でしたが、周りの日本人はみんな同じ大学から来ていたのでやりにくかったです。1 クラス 10 人くらいでした。

◆ 授業内容、課題、試験

Writing、speaking、reading、listening すべてありました。プレイスメントテストでクラスはあらかじめ決められていました。語学学校の授業はとにかく長いです。金曜日は休みなので金土日と毎週 3 連休でしたが、その分厳しい先生は課題をたくさん出してくれます。Writing の授業がとても好きでした。課題は多く、エッセイもたくさん書かないといけないのでともしんどかったです。先生はとても素晴らしい人でした。毎日たくさん書いて、エッセイも今までで一番長いものを書きあげたと思います。本当に大変でしたが、授業が終わる頃には writing の自信がとてがついていましたし、確実に自分の力になったと実感しています。試験は定期的に行われ、課題も毎日出るのでどの授業も大変ですが、先生たちはとても優しく、学習しやすかったです。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

図書館の中に 24 時間空いているコンピュータールームがあります。私のルームメイトはすぐに電気を消してしまうので、課題が終わらなそうな時はそこに行ってよく課題を仕上げていました。ポリスが定期的にパトロールしに来てくれるので安全です。大学の ID があればピッツバーグのバスは無料で乗り放題なのでとても便利です。少し歩けばスーパーやお店があります。暇な時は探検がてらよく出歩きました。大学内のジムは充実していて、運動したいときによく行きました。

◆ 履修科目

・ Academic Composition

Writing の授業で、語学学校の時と違って 1 つのエッセイを 1 セメスターかけて仕上げるというようなやり方でした。Writing の力が落ちないように取りました。エッセイの題についてだけではなく、アメリカの文化、英語の変った言い回し、祝日についてや政治についてなど広い範囲で学びました。

・ **American Literature**

英文学を勉強したくて取りました。3 日～1 週間かけてアメリカ文学を読んで、それに対する問題に答えたり、どのような書き方なのか、構成、登場人物の感情など様々なことを学びました。月曜 1 限の授業だったので少ししんどかったですが、たくさん読めるので楽しかったし、先生もとても優しくかったです。

・ **US culture and cinema**

過去の留学した先輩もみんな取っていたので興味があり取りました。毎回 1 本映画を観て、角度、音声などに関して詳しく学習しました。本当に面白い授業なのでおすすめです。

・ **World film history**

1 回の授業が 3 時間と、少ししんどい授業でしたが、インド人の優しい先生で、世界の映画について勉強する授業でした。定期的に出すレポートはしんどかったですが、学生も積極的に手を挙げて意見を述べる活発な授業で刺激されました。

・ **Choir**

音楽の授業で、聖歌隊のような感じです。週に二度みんなで練習して、クリスマス礼拝でのキャンドルライトで歌ったり、教会に行って歌ったりしました。この授業を受けている人たちはみんな本当にいい人たちで、温かく受け入れてくれました。友達も沢山出来ました。聖歌を歌うのは初めてでしたが、歌に入る前に宗教の背景なども話してくれるのでとても楽しく歌えました。聖歌だけではなくてグレイテストショーマンの有名な歌なども歌いました。入ってよかったと心の底から思いました。

◆ **授業、レポート、定期試験**

正規授業で出されるレポートは、授業をしっかり理解していないと書けないので毎回欠かさず授業に参加して、時間をかけてレポートを仕上げました。定期試験も同様で、まず単語がわからないので単語から身につけてそこからテスト勉強をしました。心理学の授業を取っていた人が一番大変そうでした。

⑦ **クラブ、課外活動、ボランティア活動**

ボランティア活動には 5 回ほど参加しました。授業が始まるそれまでに参加できるものを自分で探して応募しました。朝 5 時に起き 2 時間ほどかけてボランティア活動に参加しました。そこでもいろんな人に出会うことができるのでとても良い経験でした。そこで仲よくなったおじいさんとおばさんとはボランティア以外でも会ったりしました。ボランティアに参加する人たちなのでみんなとてもいい人たちです。留学生ということで興味を持って話しかけてくれたり、手伝ってくれたり、大学で経験できないことを経験できました。ボランティアの活動自体は探せば色々出てくるので、自分が興味あるものに参加すればいい

と思います。

⑧ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

私は現地の生活と、寮生活ともに経験したかったのでどちらもできる方を選択しました。夏の間は寮に学生がいなくなってしまうので、結果としてホストファミリーと過ごせたのは良かったと思います。ホームステイをしているときはマザーやファザーがバランスの良い食事を出してくれたので食べ物に気を付けることはありませんでしたが、寮に移ってからは自分で取るバイキング式だったので野菜を進んで取ったりして、自分で気を付けなければなりませんでした。ホームステイの家から大学までは徒歩 25 分と遠かったですが、家の周りを歩いて回るのはとても楽しかったし、気持ちが良かったです。通学路でリスやウサギに遭遇したり、自然であふれていました。寮から大学まではだいたい徒歩 5 分から 10 分で、とても便利でした。

⑨ 長期休暇の過ごし方

持っているお金で行ける範囲で旅行しました。1 人で旅行するのがいいと思います。私はニューヨーク、シカゴ、ボストン、などアメリカの 6 都市ほど訪れました。私は野球が大好きなので大谷翔平選手の試合を見に行ったり、ニューヨークヤンキースの試合を見に行きました。バスケットボールの試合も見に行きたかったですが、やはりプロの試合のチケットは高いのでチャタムのバスケ部の試合を調べてよく見にいていました。アイスホッケーが有名なので見に行っていた友達もいました。とても盛り上がってスポーツ観戦は最高に楽しいです。隣の席の人と知らない間に友達になっています。長期休暇は本当に長いので事前に計画していないと暇になってしまいます。時間を有効に活用するためにどこかへ旅行したり、何かイベントに参加するのがいいと思います。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

特にしていません。留学前にキャリア支援課に行って少し準備してから留学しました。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

アメリカを 1 人で旅行したことです。私の場合奨学金が出なかった所以、毎月節約して、行ける範囲で行きたい所を回りました。ボストン、アリゾナなど 5 つの都市を 1 人で旅行しました。旅行会社に電話して自分で飛行機の時間を調整したり、ホストマザーに一番安く行ける方法を聞いたりしてできるだけ安く、長くステイできるようなプランを前もって考えました。1 人で旅行するのは、初めはとても怖かったですが、日本では見ることの少ない大自然や、大都会などに圧倒されながら旅行しました。慣れていくうちに次の旅行が楽しみで、

人に左右されず自分 1 人で行き先を決められるのがとても楽でした。本当に行ってよかったです。旅行先で買ったステッカーやポストカードは部屋のボードに貼って飾っています。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

私たちの年から、他大学が提携したこともあって、チャタムに着いた時に日本人の多さに驚きました。語学学校は日本人だけでした。日本人と一緒にいるのは嫌でしたが、何も分からない最初の頃は、その子たち以外に聞く人がいなかったのが結果的に日本人とつるんでまわっていました。「いかに日本人と一緒にいないようにするか」を常に考えていたので、時々来る中国からの留学生や、他のクラスの他国籍の子とよく話したり、遊んだりするようにしていました。正規授業が始まってからは、韓国人と台湾人の友達と一緒に過ごしていました。先生の話すスピードに圧倒されて聞き取れず、何を聞かれているのか分からない、ということが最初はよくあって、自分の英語力の低さに絶望しました。とにかく毎日一生懸命に過ごしていたので 8 か月があつという間に過ぎていきました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

私のホストファミリーがユダヤ教だったので、数えきれないくらいの文化の違いがありました。ご飯は豆ばかりが出て、ほとんど何も食べられないということもありました。最後は慣れて一緒に食べていましたが、女性は金曜日から土曜日の間、電気を触ることができないので家中の電気をつけたり消したりするのをマザーに頼まれたり、携帯も触れないので連絡が取れず、道に迷って 3 時間外でウロウロする羽目になってしまったりしました。習慣の違いとしては、夜 8 時を過ぎるとみんなベッドに入ってしまうことです。小さい子がいたので音を立てて起こしてしまわないように気をつけていました。お風呂も 10 分以内と言われ、長く入ると怒られたりしました。あとは食事の量です。レストランや食堂で出されるご飯の量がとても多くて驚きました。平気で半分以上残してゴミ箱に捨ててしまう人が意外と多いことにも驚きました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点はイベントがたくさんあることです。体育館をレストランみたいにしてみんなでご飯を食べたり、部活動の試合をみんなで見に行ったり、カラオケ大会があったりと、みんなが仲良くなれるような企画がたくさんありました。悪かった点は、ミールプランが多すぎることです。私は最初ホームステイだったので、秋から寮に入るとミールプランを消費するのに必死でした。結局すべて消費できませんでした。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

電子辞書、折りたたみ傘、です。パソコンは持っていきましたが、大学のパソコンの方がずっと速いので、あまり使うことはありませんでした。電子辞書は授業を受けていて分からない単語が出てきた時や、ライティングの課題で一番使いました。ピッツバーグは本当によく雨が降ったりやんだりするので、折りたたみ傘を持って行ってよかったです。アメリカにも売っていますが高いし、大きすぎて鞆に入らないので、日本で買って、持っていくことをお勧めします。下着と靴下も同様で、アメリカには日本人が求めるようなものがありませんでした。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

個人的に、ペラペラに喋れるのかどうかと言ったらそれは分かりませんが、この8か月でリスニング力は上がったと実感しています。アメリカに行った時は本当にファミリーさえも何を言っているか分からない程でした(英語のクセが強いため)が、最後は困ることなく会話をすることができたり、家族同士で何を話しているのかが分かるようになりました。秋学期が始まってからルームメイトともよく話すようになって、ルームメイトの会話と一緒に入っていくこともできるようになっていました。1月に受けた TOEIC では、listening がとても上がっていて、全体的にもとても伸びました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

私は、1 回生の時、協定留学を諦めていました。私には基準が高くて自信がなかったからです。ですが、親には協定留学での留学しか許してもらえませんでした。そこで私は2 回生の夏、毎日勉強し、TOEFL キャンプに参加したりして夏が明けた頃に基準に達成しました。アメリカには夢がたくさんあります。みなさんにも是非このチャンスを掴んでほしいです。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

就活をして、英語を使った仕事に就きたいです。人の役に立つようなことを仕事にしたいと思っています。いつかピッツバーグにいる友達やホストファミリーにもう一度会いにきたいです。

V. 写真



留学生たちが集まって先生の家でバーベキューをしました。後ろに写っているのは香港から来た看護学部の学生です。みんなとてもまじめで、大学内ですれ違ったときにはいつも立ち話をしていました。とても良い人たちでした。



仲の良かったルームメイトで、この写真は大学のパーティーに参加した時の写真です。最初は彼女もアジア人に対する先入観があったと思います。めげずに話しかけているうちに、向こうから話しかけてくれるようになりました。今でも誕生日になるとメッセージを送ってきてくれます。一緒に生活していてとても楽しい人でした。



アリゾナへ1人旅した時に友達になった人です。私と同じで彼女も1人で私と同じツアーに申し込んでいてそこで知り合いました。1日目一緒に過ごしました。私が間違えた英語を使っても意味を汲んで話を聞いてくれました。ここ以外でも旅行に行ったときにはいつも友達ができたので、そこも1人旅の醍醐味だと思います。とても良い経験でした。



現地学生で **Conversation partner** だった友達です。もう 1 人いて、その子ともよく会っていました。部屋に遊びに行ってゲームをしたり、おしゃべりをしたり、ショッピングに行ったりして、とても楽しかったです。私はソフトボールをしているのですが彼女たちも偶然ソフトボールをしているという共通点があり、すぐ仲良くなれました。



大学で一番一緒にいた台湾人と韓国人の友達と、冬にスケートリンクに遊びに行った時の写真です。一緒に授業を受けたりご飯を食べに行ったり、家に遊びに行ったりしました。

M. S. 英語英文学科・3 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

高校生の頃から漠然と、大学生になったら留学してみたいという考えを持っていました。しかし絶対にしたいという確信は持っていなかったので、留学必須の国際教養学科は受験しませんでした。同女は第二志望の大学でしたが、同女の英語英文学科に入学することになり、それならば協定留学を目指そうと、入学当初から意識していました。留学先で現地の大学の授業を受けてみたかったので、セメスター語学留学ではなく協定留学を目指しました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

英語英文学科の授業全てに全力で取り組みました。2 年次には AES コースに入り、より意識を高めていきました。TOEFL キャンプや English Chat Room など、国際課主催のイベントなどに積極的に参加しました。英文学会主催の春休みの Talking in English にも参加しました。TOEFL キャンプの際に IELTS 受験に向けてみっちり勉強し、その後の IELTS 対策講座にも参加しました。その結果、IELTS で目標点を獲得することができました。当時は 2 年次の秋スタートの留学を目指していたのですが、エッセイと面接の結果が不十分だったようで不合格になりました。その後は気持ちを切り替えて 3 年次春スタートを目指して English Chat Room に積極的に通いました。春スタートの出願時には Writing support もしている English Chat Room の先生にエッセイをチェックしていただき、留学の志望理由も前回よりも明確なものにしました。前回の面接で聞かれた内容を活かし、面接の時に答えることもしっかり考えて臨みました。その結果無事合格することができました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

2 年次の秋学期が終わってから渡航までかなりの期間があり、その間英語に触れていなければ危ないと思い、特にスピーキング力は重要だと考えたので、英会話教室に通いました。ビザ申請手続きは、分からないことは全てインターネットで調べました。オンラインでの手続きもアメリカ大使館での手続きも比較的スムーズだったと思います。航空券は旅行会社で往復分を予約してもらいました。3 万円払えば帰国便の日程や発着地を変えることができました。私はできるだけ出費を抑えたかったので、京都から東京まで新幹線で行き、電車で成田に移動し、そこから飛行機にりましたが、大変なのでお勧めしません。東京駅で確実に迷いますし、東京駅から成田空港は思っていたより遠かったです。帰国時は成田から伊丹の便を別で買い足しました。

④ 現地到着後

ピッツバーグ空港から大学までは大学側が用意してくれていたシャトルバスで向かいしました。大学に到着後、担当者に会っていろいろな手続きを済ませ寮に入りました。その日は昼の 3 時か 4 時頃に大学に着いたのですが、時差ボケと昼の時間が長いのもあって、そろそろ食堂にご飯を食べに行こうと思った時には既に夜の 8 時か 9 時で、仕方なくカフェに売っていたお菓子でその日はしのぎました。次の日にオリエンテーションがあり、語学学校のクラス分けテストが行われました。テストの結果、1 番上の **Advanced** のクラスになりました。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

語学学校は大学内にあります。綺麗で特に不満はありませんでした。私が行った年から日本の他の大学から大人数の学生が留学していたため、クラス内でもよく日本語が飛び交っていたのは事実です。しかし、同じ国から来た学生がいるのは安心しますし、毎日顔を合わせるのも仲良くもなりました。なにより全員がしっかり授業や課題と向き合っていたので、日本人ばかりだから語学力が上がらないということはあまりなかったと考えています。私のクラスは私以外に、日本の他の大学から来ている日本人 6 人、中国人 1 人、メキシコ人 1 人、後半からはサウジアラビア人 1 人のクラスでした。

◆ 授業内容、課題、試験

語学学校の授業は前半 7 週後半 7 週で、ひとつの授業が 2 時間半で午前にひとつ午後にひとつ、それが月から木の週 4 日でした。ピッツバーグの文化に関する授業、リスニングやプレゼンをする授業が前半で、文法の授業とライティングの授業が後半でした。クラス毎に授業が違うので、レベルは丁度か少し難しい程度でした。授業の一環でよくフィールドワークに行きました。ピッツバーグのことをよく知れて、かつ机上での勉強以外のこともできたので楽しかったです。課題はほぼ毎日出ていましたが、3 時頃に学校が終わるので放課後に取り組めばそれほど時間もかからず終わるものがほとんどでした。クラスメイトとグループでプレゼンをすることもありました。試験は、真面目に授業を受けていれば問題ないレベルでした。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

語学学校とほとんど変わりません。どの授業も基本的に日本よりも少人数で行われるので、1 番大きいクラスでも 50～60 人程度でした。キャンパス内は自然が豊かで、野生のリス、ウサギ、シカがいます。住んでいた寮から教室までは約 5 分だったので、普段 1 時間半かけて通学してる私にはかなり楽に思えました。

◆ 履修科目

大学側の担当者と自分の受けたい授業やおすすめの授業について話し合っ決めてしました。

1 回目の授業で予想よりもレベルが高くて履修を取り消し、新しく違う授業を取ったものもありました。私は5つの授業を履修しました。履修したのは World Film History、Special Topics in Social Media、US Cinema and Culture、Academic Communication、Piano です。

・ World Film History

世界の様々な国や地域の映画を毎回鑑賞し、鑑賞後にクラス全体で内容やキャラクターの描かれ方などについて話し合う授業でした。先生がアップロードする映画の歴史に関する資料を読んでおくのが宿題でした。

・ Special Topics in Social Media

ソーシャルメディアについての歴史、適切な使い方、ビジネスで使う上でやっていいことと悪いことなど様々な角度からソーシャルメディアについて学びました。毎回実践的な課題が出されました。

・ US Cinema and Culture

語学学校の授業から選びました。アメリカの映画を鑑賞して、その中で使われている単語や表現を学んだり、映画の基礎的な撮影法や音響についても学びました。

・ Academic Communication

これも語学学校の授業から選びました。Happiness や Love といったテーマで毎回 TED talk を視聴し、何が重要かを考え、クラスで話し合うという授業でした。

・ Piano

ずっとピアノを習っていたので、息抜きになったらと思って選びました。週1回1時間のマンツーマン指導の授業でした。

◆ 授業、レポート、定期試験

・ World Film History

50～60人のクラスで、グループではなくクラス全体での話し合いだったので発言するのが難しかったです。先生自身もネイティブではないので、私たち留学生に理解のある先生でした。映画に興味があるので選びましたが、普段見ないようなインドやドイツの映画を見られて勉強になりました。試験はなく、中間と期末にそれまでに鑑賞した映画の内容に関する質問に答えるという形のレポートがありました。中間の時は苦労して何とか書ききったという感じでしたが、期末は書きたいことを進んで書けるようになり成長を感じました。

・ Special Topics in Social Media

ソーシャルメディアに関する授業は日本ではあまり聞いたことがなく、現地の国際課の担当者に勧められて興味を持ったので選びました。20 人程度のクラスで、グループディスカッションがよくありました。最初は他の学生の話すスピードについていけず大変でした。中間はそれまで学んだことをおさらいするテストでした。期末はグループで、実際にビジネス上でソーシャルメディアを利用している方に、より効果的なソーシャルメディアの使い方を提案するというものでした。今後活かせる内容ばかりで勉強になりました。

・ **US Cinema and Culture**

いろんなジャンル（ドラマ、コメディ、ミュージカル、ホラーなど）のアメリカ映画を見て、その作品の中での単語や文法表現について学んだり、内容についてグループでディスカッションしました。効果的な撮影方法や音響など、映画製作の基礎についても学びました。語学学校の授業ということもあり、難易度は高くなく、毎回楽しんで授業を受けることができました。中間・期末はそれぞれそれまでに学んだ内容をおさらいするテストでした。

・ **Academic Communication**

授業を通して 4 つのテーマ（cultural diversity、SDGs、love、happiness）について順番に学びました。それぞれの内容に関するスピーチや他大学の有名な教授の授業のビデオを見たり、それに関する質問に答えたりして理解を深めました。グループでのディスカッションもほぼ毎回ありました。中間はそれまでの内容についてのリスニングやライティングを含むテスト、期末は中間と同じ形式のテストとグループでのプレゼンテーションでした。どのテーマも生きていく上で大切なことですが、深く考える機会はありませんでしたので、授業を通して様々な知識を得ることができて良かったです。

・ **Piano**

週 1 時間のマンツーマン指導のレッスンでした。せっかくアメリカに来たのでアメリカの作曲家の曲に挑戦したいということで、ガーシュウインの **Prelude** に挑戦しました。予想より難しく、また他の授業の課題などでなかなかまとまった練習時間が取れなくて大変でした。さらに学期末の学生リサイクルに出ることになってしまい、本番 2 週間前からそれまで以上に頑張って練習して、何とか曲にはなりました。先生もウクライナからの移民なので、留学生には理解がありました。授業以外でもサンクスギビングの時に私や他の学生を家に招待してくれて、ディナーをいただきました。

⑦ **クラブ、課外活動、ボランティア活動**

インターナショナルクラブに所属していました。何度かミーティングがあり、中でもミニゲームなどをして交流を深めました。クラブ主催のハロウィンパーティーはとても盛り上がりしました。

⑧ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

住む寮や部屋は自分では決められず、現地の大学側に指定された寮に入ります。語学研修期間と正規科目履修期間とで別々の寮でした。初めの寮は2人部屋で、共有のバスルームは隣でした。この寮のほとんどの部屋にはエアコンが付いていないのですが、私の部屋には付いていたので暑い夏も快適に過ごせました。ダイニングでの食事は付いていなかったの自炊でした。共有キッチンに共有の冷蔵庫があり、使っていました。共有の洗濯機と乾燥機もあり、住んでいる人数も少なかったののでだいたい3日に1回洗濯していました。次の寮は4人部屋でした。建物自体も広く、同じフロアにバスルームもいくつかありました。住んでいる人数が多く、寮の決まりで週1回しか洗濯機を回せなかったのが大変でした。食事は基本的にダイニングで食べていましたが、たまに日本のカップラーメンを食べたりしました。エアコンがなかったので、初めの頃（8月末から9月頃）は暑くて大変でした。冬はヒーターが付くので寒くありません。どちらの寮も教室やダイニングからは5分以内の距離でした。

⑨ 長期休暇の過ごし方

独立記念日の休暇、夏休み（2週間）、サンクスギビングの休暇、プログラム終了後帰国するまで（2週間）はずっと旅行していました。他の日本人の友達と一緒にカナダやアメリカ各地に旅行しました。夏休みの後半1週間には母がアメリカに来てくれて、一緒にロサンゼルスやアナハイムのディズニーを観光しました。帰国前の旅行は1人でアメリカ各地を回りました。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

全く何もしていませんでした。何かするべきとは思っていましたが、留学中は目の前のことに精一杯で就職活動のことまで考える余裕はありませんでした。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

旅行でいろんな場所に行ったことです。留学前からアメリカの文化に興味があり、帰国後はアメリカに関するゼミに入ろうと考えていたので、アメリカ各地の文化や歴史に触れることはとても刺激的でした。ニューヨーク、ワシントン D.C.、フィラデルフィア、アトランタ、ニューオリンズ、ヒューストン、サンアントニオ、ダラス、ロサンゼルス、サンフランシスコ、オーランド（ウォルトディズニーワールド）、そしてカナダのモントリオール、トロント、ナイアガラの滝に行きました。極力旅費を抑えるために、格安の長距離バスやユースホステル、Airbnb などを利用することもありました。最後の2週間の1人旅では宿や交通機関の予約から現地でのトラブル解決まで全て1人で向き合ったので、とても良い経験

になりましたし、自信もつきました。

② 留学中でつかったこと、最も苦勞したこと

何かあった時に頼れる人が少ないことだと思います。日本人同士でも助け合えるとは思いますが、普段から仲の良い友達同士でもない限り気を遣って遠慮してしまうこともあるのではないかと思います。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

アメリカ人と日本人では公衆衛生に対する意識が違うんだなと思いました。スーパーなどのトイレにトイレットペーパーが散乱していることはよくありました。寮でも土足で使うトイレに裸足で平気で入っていく人もいました。ピッツバーグを含め、アメリカの都市部の多くはゴミが多く、他に嗅いだことのない独特の臭さを感じました。良かった点は優しい人が多いことです。日本人は仕事ではサービスとしておもてなしをしますが、普段から街行く人が困っていても進んで助けることは少ないと思います。アメリカ人は誰にでもフランクで、困っていそうな人がいたら声をかける人が多かったと思います。店や大学内で知らない人にでも「あなたの服素敵ね」などと褒める人も多くて、良い文化だなと思いました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は、まず立地が良いことです。周囲にスーパーや日本食を取り扱う店もありました。バスに乗ればダウンタウンやショッピングモールに行くことも容易でした。そして授業は少人数で行うことが多いので、先生との距離も近く、質問や相談がしやすい環境でした。悪かった点は、寮にエアコンが付いていない部屋が多いことです。夏は30度を超えて、湿度の高い気候なので、エアコンなしでは大変だと思います。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

まずパソコンは必須です。私は普段使っている A4 サイズのものを持って行きましたが、現地の学生の多くは B5 サイズの Mac を使っていました。確かに持ち運びがしやすいのは B5 サイズのものだと思います。持って行って良かったもの（後で送ってもらったものも含む）は延長コード、プラスチックのコップ、歯ブラシ、カップ麺などです。アメリカの歯ブラシは日本のものよりブラシの部分が長く、使いにくいと思います。カップ麺は日本食スーパーにも売っていましたが、日本で売っているものの方がかなり美味しいです。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学力はリスニング力が特に上がったと思います。リーディング力とスピーキング力も上がったと思います。ライティング力は特別上がったとは感じませんが、苦手意識はなくなり

ました。留学中の授業では自分の興味があった分野以外にも様々な分野について学び考えました。今までになかった発見があったり、よく知らなかった分野への理解が深まりました。留学生中の経験で、自分の力で物事を考え、計画し、実行する力が高まり、自信がついたと思います。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学が決定するまでが 1 番大変ではないかと私は思います。もちろん留学中も大変なことはありますが、周りの他の学生や留学生もみんな頑張っていますし、先生達からのサポートもあるので乗り越えられると思います。留学決定までは普段の学科の勉強に加えて語学力を磨かなければなりません。私の所属する英語英文学科を例に挙げると、この学科は文系学科の中では課題が多くただでさえ大変だと思う人も多いと思います。その上に留学のための勉強となると、当然サークルや遊びやアルバイトの時間が削られることになります。課題も少なく、サークルと遊びとアルバイトに謳歌している他の学生を目にすると、彼らと自分を比べてしまって、彼らを疎ましく感じたりなぜ自分だけと思うこともあるかもしれませんが、それを乗り越えた先に留学という夢が叶う場所があるのだと思います。別の言い方をすれば、それすら乗り越えられなければ実際の留學生活は耐えられないかもしれません。しかし、すべてを乗り越えた先には自分の人生にとっての収穫が数え切れないほどあると思います。自分を信じて出来る限りのことをやってみてください。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

海外とも取引する日本の企業で働きたいと思っています。海外出張ぐらいはこなせるようになるために、もう少し英語力を高める努力をしようと思います。

V. 写真



語学研修期間中の寮の外観です。なかなか歴史のある寮でしたが、部屋にエアコンが付いていたこともあり、基本的には問題なく過ごせましたが、隙間からよく虫が入ってきていました。



ある日の夕食です。ダイニングホールでの食事はバイキング形式なので、自分の好きなものを好きなだけ取ることができます。ステーキは美味しかったです。



ダウンタウンには劇場が多く、ミュージカルやコンサートを観れる機会が多いです。これは「美女と野獣」のミュージカルに1人で観に行った時に記念に撮ってもらったものです。日本とは違い、アメリカではミュージカルを観に行く時にドレスやスーツなどのおしゃれな格好をして行く人がほとんどでした。



チャタム大学からもほど近い、ピッツバーグのオークランド地区のシンボルである、ピッツバーグ大学の「学びの聖堂」です。建物内にはたくさんの国と地域をイメージしたナショナルリテイルームがあり、とても美しいです。



夏休みにお母さんがロサンゼルスに来てくれて、一緒にアナハイムのディズニーランドに行きました。東京のディズニーリゾートより気軽に短い時間でキャラクターと写真を撮れて良かったです。